

BD作品における人物名の翻訳

—*Astérix, Les Aventures de Tintin*をコーパスとして—

東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻

博士後期課程1年 安藤 薫

2024年12月7日 日本フランス語学会 第349回例会

発表の流れ

1. はじめに（研究の背景と目的）
2. 固有名詞とは
3. 固有名詞の翻訳について
4. コーパスについて
5. 固有名詞の翻訳事例
6. おわりに（まとめ）

1. はじめに

1.1. 研究の背景

- 固有名詞は一般的に翻訳不可能（翻訳しないもの）と考えられているが（cf. 3.1.）、実際には固有名詞が翻訳されるケースも少なくない。
- このような状況を受けて、多くの先行研究が固有名詞の翻訳について考察している。（ex. Ballard 1998 ; Delesse 2015, 1998 ; 今野2014, etc.）
- 特にBDや漫画といったコミックス作品において、多くの固有名詞が翻訳されており、主要な研究対象となっている（Baker and Saldanha 2009 : 39）。

1.2. 研究の方法と目的

- 本発表では、*Astérix*、*Tintin* における主要登場人物の名前を対象として、その英語訳・日本語訳を観察し、固有名詞翻訳における通説（「固有名詞は翻訳しない」）について再検討する。
- そのうえでBDにおいて固有名詞が果たす機能についても検討し、「なぜコミックスの翻訳において固有名詞が重要な論点となりやすいのか」考察する。

2. 固有名詞とは

2.1. 辞書における固有名詞の定義

Nom propre : sous-catégorie du nom, désignant un être ou un objet considérés comme uniques, par opposition au nom commun (par exemple, Jacques, Bonaparte, Paris).

<https://www.larousse.fr/dictionnaires/francais/proprie/64408#158772>

固有名詞：名詞の下位カテゴリーで、普通名詞とは対照的に、唯一と見なされる存在や物を指し示す

(例：ジャック、ボナパルト、パリ)

※唯一の対象を指し示す名詞

2.2. 固有名詞の意味：Millの見解

[...] whenever the names given to objects convey any information — that is, whenever they have properly any meaning — the meaning resides not in what they denote, but in what they connote. The only names of objects which connote nothing are proper names; and these have, strictly speaking, no signification. (Mill 2019 : 43)

モノにつけられた名前が何らかの情報を伝えるとき、すなわちそれらの名前が何らかの意味を持つときは必ず、その名前の意味はデノテーションではなく、そのコノテーションに存する。いかなるコノテーションも持たない唯一の名詞は固有名詞であり、したがって厳密に言えば、固有名詞は意味をもたない。

If, like the robber in the Arabian Nights, we make a mark with chalk on a house to enable us to know it again, the mark has a purpose, but it has not properly any meaning. [...] When we impose a proper name, we perform an operation in some degree analogous to what the robber intended in chalking the house. (Mill 2019 : 43-44)

アラビアンナイトの盗賊がするように、再度それを識別できるようにある家にチョークでしるしをつけるとき、そのしるしには目的があるが、意味はない。我々が（ある対象に）固有名詞をつけるとき、盗賊たちが家にチョークでしるしをつける意図と、ある程度類似した作業をしている。

（固有名詞は外示するのみで共示はしない。固有名詞は対象を他と区別して指示する役割しか持たず、固有名詞には意味がない。）

2.3.固有名詞の意味に関するその他の見解

- 言語哲学の分野では固有名詞には意味がない（指示するのみ）と見なすMillの見解とは対照的に「記述の集まり」と見なす立場（Frege, Russell, etc.）も存在する。(Recanati 1983)
- 固有名詞は個別の事象にかかわるため、普通名詞よりも意味内容が豊富であるという見解もある。

Si l'on classait les noms d'après la quantité d'idées qu'ils éveillent, les noms propres devraient être en tête, car ils sont les plus significatifs de tous, étant les plus individuels (Bréal 1924 : 183).

- **固有名詞翻訳に関する言説（通説）においては、一般的にMillの見解のみが考慮されている。**

3. 固有名詞の翻訳

3.1 固有名詞翻訳に関する通説

一般的通説：固有名詞は翻訳しない

- « ils (noms propres) passent d'une langue à l'autre sans être traduits » (Bréal 1924 : 182)
- On dit souvent que le nom propre constitue une limite de l'acte de traduire : pour certains il ne signifie pas et l'usage veut qu'on ne le traduise pas. (Ballard 1998 : 199)

3.2. 固有名詞が一般的に翻訳不可能と考えられる理由

Par sa nature le nom propre sert, en principe, à désigner un référent unique, qui n'a pas d'équivalents. Or, la traduction étant par nature recherche d'équivalence, il est évident qu'il y a contradiction théorique entre les termes. De ce point de vue, la non-traduction du nom propre s'apparente au processus de l'emprunt face à des termes (généralement des référents culturels) dont la contrepartie n'existe pas. (Ballard 1998 :201)

固有名詞は本質的に、等価物が存在しない唯一の指示対象を指し示すためのものである。一方で翻訳とは本質的に等価性の追求であるため、これらの用語の間には明らかに論理的矛盾がある。この観点から見ると、固有名詞の非翻訳は、対応語が存在しない用語（一般的には文化的参照物など）に対して用いられる借用のプロセスに似ている。

例：のれん → noren、うどん → udon

Ballardの説明解釈

固有名詞は対象を他と区別して指示する役割しか持たず、固有名詞には意味がない。一方で翻訳とは、本質的に「同等の意味の再現（**equivalence**：等価性^{※1}）」を追求するものであるため、固有名詞の翻訳は不可能であると考えられる。

※1：等価は翻訳理論の中心的概念である。しかし、等価概念をどのように扱うかについては立場が大きく分かれている（Baker and Saldanha 2009：96〈既訳を参照〉）。Ballardはここでは単純に〈同等の意味〉といったニュアンスで「等価性（l'équivalence）」という語を用いていると考えられる。

3.3. 一般的な固有名詞翻訳の原則 (今野 2014)

- 同じ文字体系が適用される場合、とりあえず発音の違いは無視して、名前に手を加えずにそのまま移す。

例：Chaplin (英語) → Chaplin (仏語)

- 文字体系が多少とも異なる場合は、SLにおける発音をTLでなるべく近い音で再現した「音訳」を採用する

例：Chaplin (英語) → チャップリン (日本語)

しかし、この原則からはずれる場合 (4つのケース) があると今野 (2014) は指摘している。

原則から外れる4つのケース（今野 2014）

1. 同一の対象に対して、SLとTLでことなった呼称がある場合

例：Firenze（伊語） → Florence（仏語）

2. 固有名詞の本来の意味を生かしたい場合

例：Black Sea（英語） → 黒海（日本語）

3. 音自体に焦点が当てられる場合（駄洒落や掛詞）

例：Pleindastus（仏語） → ズルカシコクス（日本語）

（Plein d'astuceをもじっている）

※ただし、翻訳する際には「音」だけでなく「意味」の再現が重要になる。

原則から外れる場合 続き

4. 固有名詞のコノテーションが問題となる場合

名前は、年代や社会階層、ある種の性格までが表示される記号となりうるため、フィクション作品における人物名を翻訳する際には、ある種の工夫が求められることがある。

例：ジョバンニ→Kenji、カムパネルラ→Minoru

（『銀河鉄道の夜』 Sigrist & Stoud 英訳）

例：出木杉くん（ドラえもんの登場人物）→Ace（英語）

動機づけがある固有名詞

動機づけがある固有名詞 (les noms motivés)

〈動機づけがある固有名詞〉

Les noms motivés par le personnage ou le contexte (Delesse et Richet 2009 : 74)

〈動機づけ (motivation) とは〉

[...] nous appelons motivation le fait que le choix du patronyme ait un rapport avec une caractéristique physique ou morale du personnage, sa profession ou son rôle dans la diégèse, ou bien au contexte – dialogues et/ou images. (*Ibid*)

- 動機づけとは、登場人物の特徴や職業、物語における役割、あるいはコンテクストに関連付けて人名を決めること。
- すなわち「**動機づけのある固有名詞**」とは、いわゆる「**名は体をあらわす**」ような固有名詞のこと。

例：出木杉君（勉強がよくできる）

炭治郎（炭を売ることを生業にしている）

桃太郎（桃から生まれた）

3.4. BDにおける固有名詞について

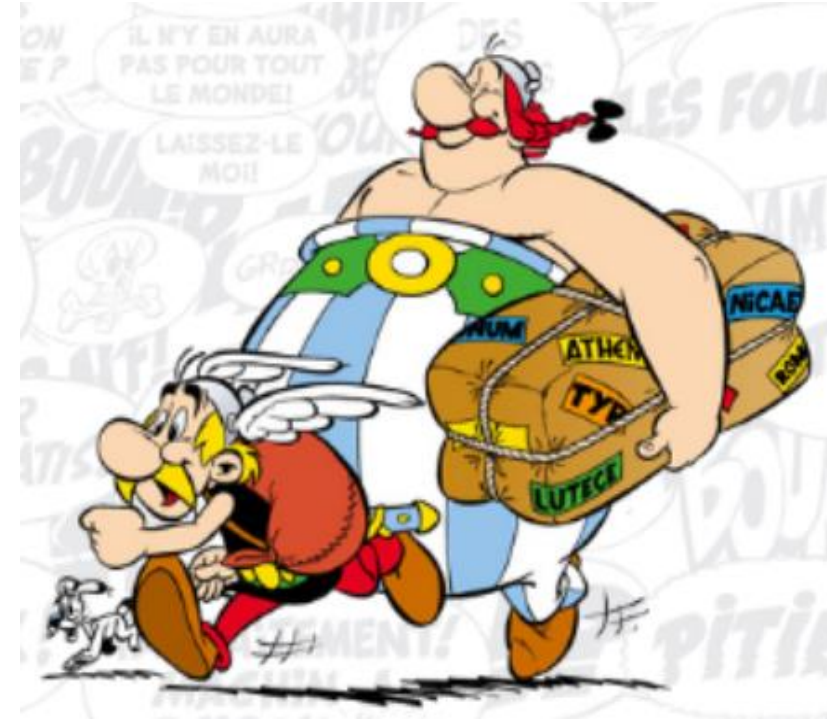
- **BD**における固有名詞は、特に「3:音自体に焦点があてられる場合（駄洒落や掛詞）」「4:固有名詞のコノテーションが問題となる場合（動機づけのある名前）」に当てはまることが多い。
- 3：**BD**というジャンルの性質上、笑いを誘うようなユーモア（駄洒落など）のある名前がつけられることが多い。
- 4：想定される読者が子供の場合には、登場人物のキャラクターを分かりやすくするために、動機づけのある名前が用いられることが多い。

*Astérix*には3、*Tintin*には4に相当する固有名詞が多い。

4. コーパスについて

4.1. *Astérix*

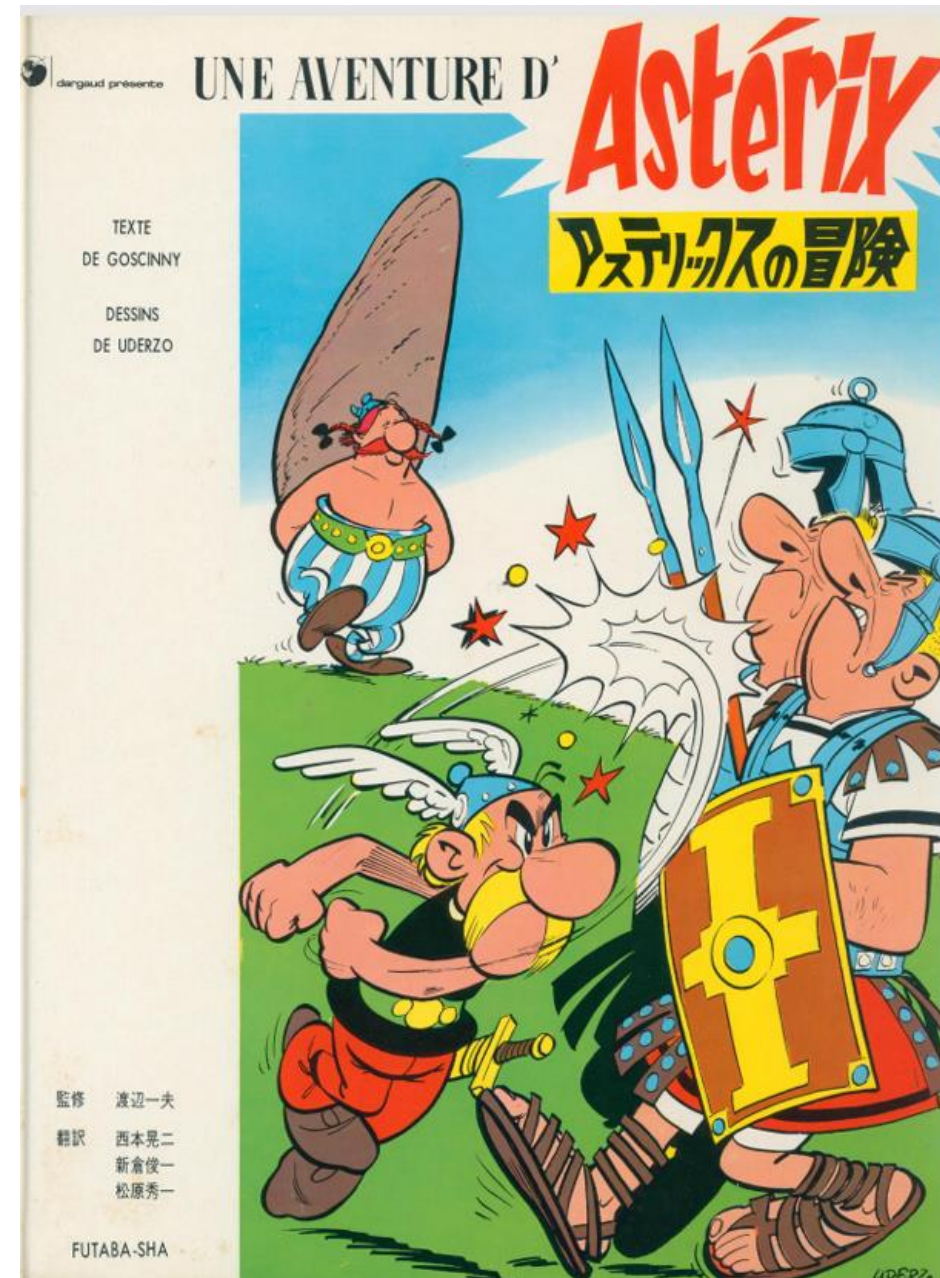
- *Astérix*は、1961年出版の第1巻*Astérix le Gaulois*から続くフランスの代表的なBDシリーズ。物語の舞台は古代ローマ時代のガリアであり、シリーズ全体を通してパロディーや言葉遊びが豊富なことで有名な作品である。
- 第1巻から第23巻*Obélix et Compagnie*（1976）まで一貫して、シナリオはRené Goscinny, イラストはAlbert Uderzoが担当していたが、現在は新たな担当者によって引き継がれている。これまでに111の言語と地方語に翻訳され、全世界で3億8千5百万部以上を売り上げている。



日本語訳コーパス

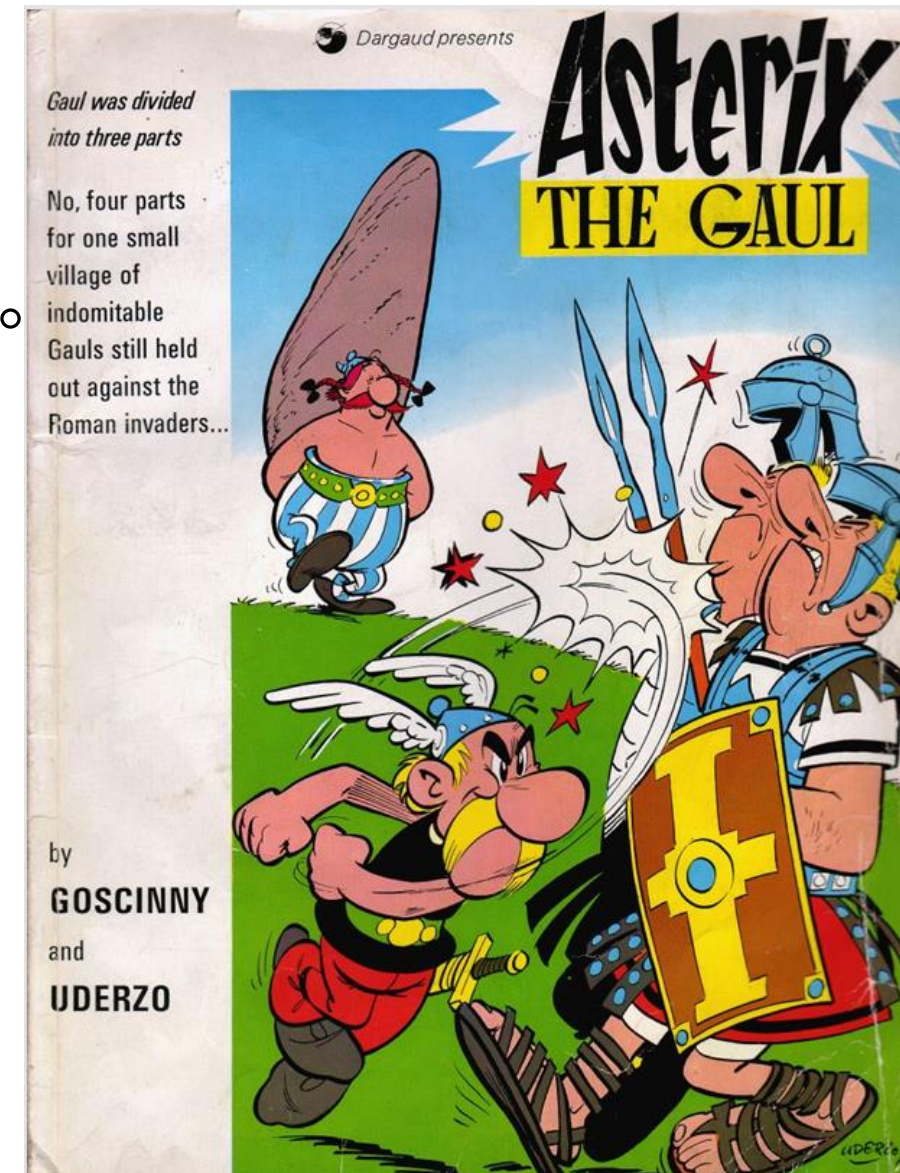
日本語訳コーパスとしては、渡辺一夫監修、松原秀一、新倉俊一、西本晃二による翻訳を使用した（翻訳者はいずれも著名な仏文学研究者）。

*Astérix*は、1974年にシリーズ最初の三作品が双葉社から翻訳出版されているが、それ以降、日本語翻訳版は出ていない。



英語訳コーパス

- 英語訳のコーパスとしては、Anthea Bell and Derek Hockridgeによる英国版の翻訳を使用した。
- Anthea Bellはフランス語、ドイツ語、デンマーク語の翻訳者。児童文学やコミックスを多数翻訳しており、*Petit Nicolas*（シナリオ：Goscinny、イラスト：Sempé,）や*Blueberry*（シナリオ：シャルリエ、イラスト：メビウス）等の翻訳も手掛けている。
- Derek Hockridgeはイギリスの翻訳家、教師であり、俳優としても活動していた人物。



4.2. *Les aventures de Tintin*

- *Les aventures de Tintin*は、少年記者タンタンが、相棒のフォックステリア犬・スノーウィとともに世界中を駆けめぐり、難事件や様々な出来事に遭遇する物語。
- 1929年、コミックス作家エルジェ（1907-1983／本名ジョルジュ・レミ）によってベルギーで誕生した。未完を含めた24話の物語は、世界110以上の言語および地域語に翻訳され、世界中の人々に愛され続けている（cf. Tintin official website.）。



日本語訳コーパス

- 日本語訳コーパスとしては、川口恵子訳『タンタンの冒険』シリーズ（福音館書店）を使用した。日本語版刊行の順序はオリジナルと大きく異なっているが、1983年から次々に翻訳がなされ、現在では全24巻が翻訳されている。
- 日本の書店や図書館では、絵本のコーナーに置かれていることが多い。



英語訳コーパス

英語訳コーパスとしては、Leslie Lonsdale-Cooper, Michael Turnerによる英国版の翻訳を使用した。

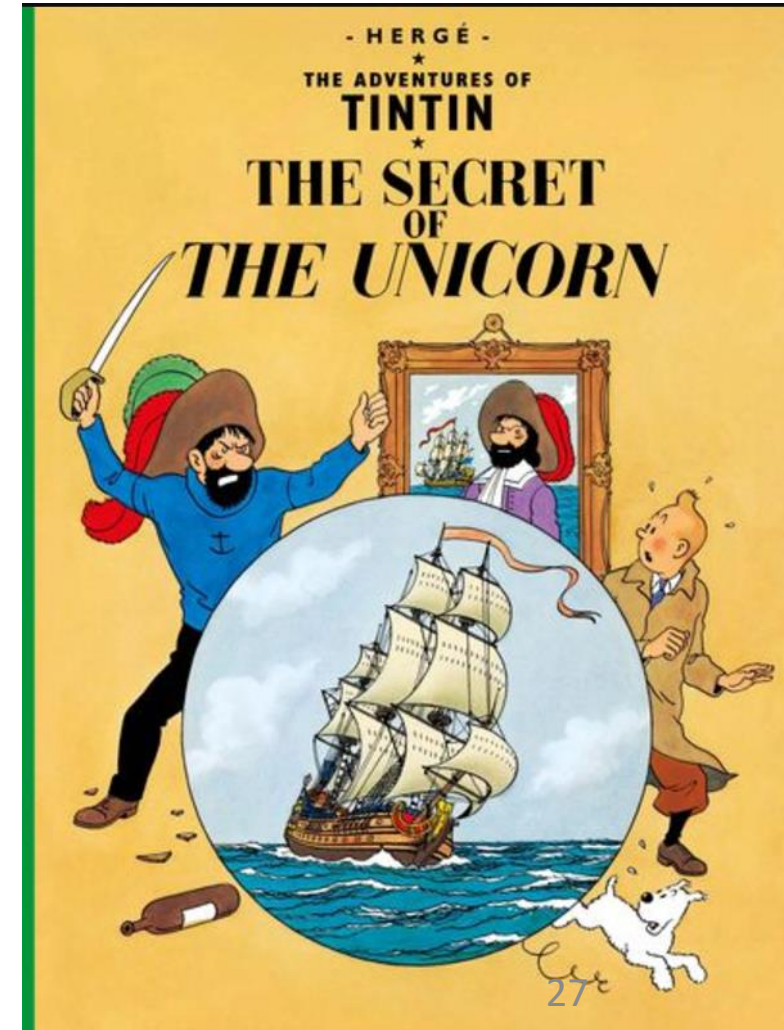
二人は1950年代に*Tintin*の出版権を獲得したMethuen社の編集者だったが、無報酬で最初の一話を翻訳することを申し出た（試作として最初にて*Le sceptre d'Ottokar* と *Le secret la Licorne* を翻訳した）

cf. TINTIN JAPAN

http://www.tintin.co.jp/news/newsdate_kaigai/2009/news_k_090714.html

（2024年11月21日閲覧）

その後40年以上にわたってこの二人でTintinシリーズを翻訳し続けた。



5. 固有名詞の翻訳事例

Astérix

5.1. *Astérix* における固有名詞

- *Astérix* における主要登場人物の名前は、すべて音声の類似に基づいた駄洒落をなしている。
- 主要登場人物（ガリア人）の名前は全て-ixで終わる名前になっている。（cf. **Vercingétorix**）
- 本節では各人物名を仏語原文・英語訳・日本語訳の順に列挙し、日英の訳文と原文とを比較する。
- その際、各人物名の「**遊戯項・被遊戯項**」を提示し、それぞれの固有名詞が何をもじっているのか明示する。

～ 遊戯項・被遊戯項とは ～

- 「遊戯項/被遊戯項」とは、Guiraudが言葉遊びを分析するために提案した「*ludant / ludé*」という対立概念（Guiraud, 1976 : 105）に基づくものであり、言葉遊びの核となるとなる「二重の意味を帯びる部分（キーフレーズ）」を説明するためのものである。
- 遊戯項とは、キーフレーズにおける「与えられた通りのテキスト（*Ibid.*）」を、被遊戯項とは「そこに潜在するテキスト（*Ibid.*）」を指す。

(例. 1) 「布団がふっとんだ」

遊戯項：ふっとんだ（動詞「吹っ飛ぶ」の連用形（撥音便）＋助動詞「だ」）

被遊戯項：布団だ（名詞「布団」＋助動詞「だ」）

「ふっとんだ」が「布団だ」をもじっている

(例. 2) Entre deux mots, il faut choisir le moindre.

この例文は、明示的には「二つの語(mots)のうちで小さい方を選ぶべきである」を意味するが、「二つの悪(maux)のうち小さい方を選ぶべきである」を暗示する。

遊戯項：mots (mot 〈単語〉の複数形)

被遊戯項：maux (mal 〈悪〉の複数形)

« mots »が «iaux »をもじっている。

このように駄洒落の遊戯項・被遊戯項を示すことによって、駄洒落のどの部分が何をもじっているのか明示することができる。

Astérix

【F】 Astérix

遊戯項 : Astérix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : astérisque (アステリスク、星印)

【E】 Asterix (アクソンなしで原文のまま)

遊戯項 : Asterix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : asterisk (アステリスク、星印)

【J】 アステリックス (原文のまま音訳)

遊戯項 : アステリックス (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : アステリスク (アステリスク、星印)



Astérix

Obélix

【F】 Obélix

遊戯項 : Obélix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : obélisque (オベリスク、方尖柱)

obéir, obèse, obélisque (ダガー : †)

【E】 Obelix (アクソンなしで原文のまま)

遊戯項 : Obélix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : obelisk (オベリスク)

【J】 オベリックス (原文のまま音訳)

遊戯項 : オベリックス (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : オベリスク



Obélix

Panoramix

【F】 Panoramix

遊戯項：Panoramix（固有名詞の指示対象）

被遊戯項：panoramique（全景を見晴らせる）

【E】 Getafix

遊戯項：Getafix（固有名詞の指示対象）

被遊戯項：get a fix（薬物を手に入れる, etc）

→**動機づけあり**（当該人物は魔法の薬の作り手）

【J】 パノラミックス

原文のままの形で音訳されている



Panoramix

Assurancetourix

【F】 Assurancetourix

遊戯項 : Assurancetourix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : assurance tous risques (全災害対応保険)

【E】 Cacofonix

遊戯項 : Cacofonix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : cacophony (不協和音)

→ **動機づけあり (当該人物の歌唱力に関連)**

【J】 アシュラントリックス

原文のままの形で音訳されている

(やや変形されている)



Assurancetourix

Abraraccouricix

【F】 Abraraccouricix

遊戯項 : Abraraccouricix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : à bras raccourci(s) (荒々しく)

【E】 Vitalstatistix

遊戯項 : Vitalstatistix (固有名詞の指示対象)

被遊戯項 : vital statistics (人口動態統計)

【J】 アブララクルシックス

原文のままの形で音訳されている



Abraraccouricix

表1. *Astérix* における固有名詞翻訳 まとめ

仏語原文	英語訳	日本語訳
Astérix	Asterix	アステリックス
Obélix	Obelix	オベリックス
Panoramix	Getafix (動機づけあり)	パノラミックス
Assurancetourix	Cacofonix (動機づけあり)	アシュラントリックス
Abraraccouricix	Vitalstatstics	アブララクルシックス

Astérix における固有名詞翻訳 まとめ

- 英語訳日本語訳ともに、主人公二人の名前（Astérix, Obélix）はそのままの形（音訳）で訳文に採用されている。
- それ以外の人物名に関して英語訳は、「語尾の-ix」、「駄洒落としてのユーモア」を保持したまま、形を変えて翻訳している。またその際に可能であれば、当該登場人物の特徴に関連付けた動機づけのある名前を採用し、さらなるユーモアの効果を追加している(ex. Panoramix→Getafix ; Assurancetourix→Cacofonix.)。
- 日本語訳は言葉遊びの再現を放棄して、すべての人物名を音訳するにとどまっている。その結果、すべての固有名詞の語尾は「ックス」で完全に統一されている。

Les aventures de Tinitn

5.2. *Tintin* における固有名詞

- *Tintin* には、ユーモラスな名前をもつ人物が多数登場する。
- それらの固有名詞は必ずしも駄洒落をなしているわけではないが、動機づけのある名前や、子供に親しみやすい工夫がされている名前が多い。
- 本節では各人物名を仏語原文・英語訳・日本語訳の順に列挙し、日英の訳文と原文を比較する。
- その際、各人物名の特徴を記述し、STにおける固有名詞の特徴がどのくらいTTに反映されているのか観察する。

Tintin

【F】 Tintin

- 同音の繰り返しから成り立つ名前（子供に発音しやすい）
- ちりんちりんと鳴る音を表わすオノマトペを想起させる
- 「なにもない」「お手上げだ」といった意味の間投詞を想起させる

interjection *Tintin !* : rien du tout.

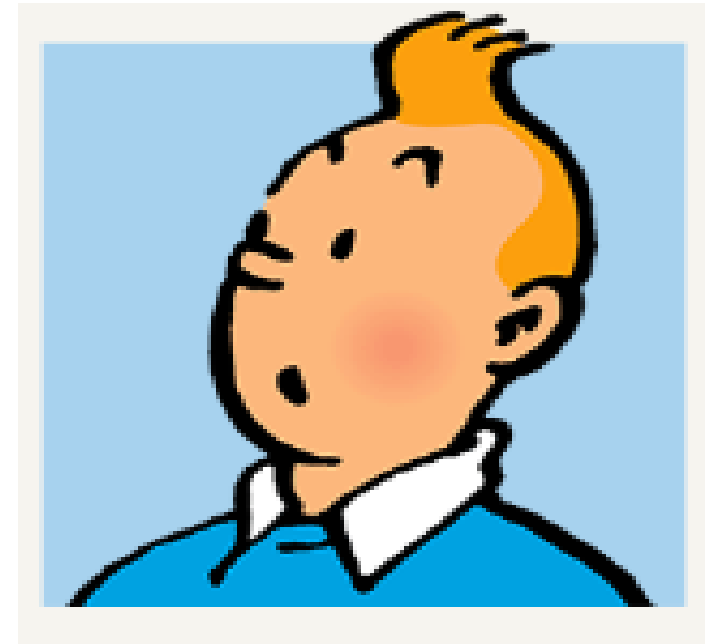
<https://dictionnaire.lerobert.com/definition/tintin> (le Robert dico en ligne)

【E】 Tintin

- フランス語原文のまま（発音は英語風）
- 缶などの音を想起させる

【J】 タンタン

- フランス語原文のままの形で音訳



Milou

【F】 Milou

- 言葉遊びや動機づけは特になし

【E】 Snowy

- 動機づけあり：固有名詞が指し示す犬の外見的特徴（真っ白であること）を示唆している

【J】 スノーウィ（英語訳を採用）

- 動機づけあり：固有名詞が指し示す犬の外見的特徴を示唆している

◎日英両訳において、動機づけが補足されている。



Le capitaine Haddock

【F】 Le capitaine Haddock

- Haddockは英語からの借用語でモンツキダラの薫製のこと（仏語ではéglefin fumé）
- 動機づけあり：魚に因んだ名前であることは、彼の職業（船長）を示唆している。英単語に因んだ名前であることは彼の出自（イギリス系）を示唆している。

【E】 Captain Haddock

- そもそも英語であるため、英語訳では特に問題なく、原文そのままのかたちが採用されている（必然的に動機づけも保持されている）
- ただし発音は英語風に発音される

【J】 ハドック船長

- そのまま音訳されている（ただし英語風に音訳されている）
- 動機づけは消滅している



Dupond/Dupont



【F】 Dupond/Dupont

- どちらもごく平凡なフランス人の名字
- 両者の名前は末尾の子音字（d/t）を除いてほぼ同じ綴りであり、発音は全く同じ。
- 動機づけあり：名前の類似が当該登場人物の外見的類似と対応している。

【E】 Thompson/Thomson

- どちらも平凡なイギリス人の名字
- p（サイレント）の有無を除いて、ほぼ同じ綴りの名前であり、発音は全く同じ
- 動機づけあり：名前の類似が人物の類似と対応している。

【J】 デュボン/デュポン

- 一文字（ボ/ポ）を除いてほぼ同じ名前であり、発音も非常に似ている。
- 動機づけあり：両者の名前が二人の関係性を表している。

Le professeur Tournesol



【F】 Le professeur Tournesol (Tryphon Tournesol)

- tounesolは「ヒマワリ」を指す名詞であるが「リトマス」の意味もある（cf. papier de tournesol）
- 動機づけあり：「リトマス」の意味は、当該人物の職業（科学者）と関連している。
- フルネーム：Tryphon Tournesolは同一の子音字で始まっていて、頭韻（allitération）を踏んでいる。
- Tryphonは非常に古めかしい名前である（Delesse 2015 : 255）。

【E】 Professor Calculus (Cuthbert Calculus)

- 動機づけあり：calculusは「微積分学」を指す名詞であり、当該人物の職業（科学者）と関連している。
- フルネーム：Cuthbert Calculusは同一の子音字で始まっていて、頭韻を踏んでいる（allitération）。
- Cuthbertも原文同様に時代遅れのおかしな名前である（Delesse 2015 : 255）

【J】 ビーカー教授（ビルフリート・ビーカー）

- 動機づけあり：ビーカーは化学実験に用いられる容器のことであり、当該人物の職業（科学者）と関連している。
- フルネーム：ビルフリート・ビーカーは同一の文字で始まっていて、頭韻を踏んでいる。

表2. *Tintin* における固有名詞翻訳 まとめ

仏語原文	英語訳	日本語訳
Tintin	Tintin	タンタン
Le capitaine Haddock (動機づけあり)	Captain Haddock (動機づけあり)	ハドック船長
Milou	Snowy (動機づけあり)	スノーウィ (動機づけあり)
Dupond et Dupont (動機づけあり)	Thomson and Thompson (動機づけあり)	デュボンとデュポン (動機づけあり)
Le professeur Tournesol (Tryphon Tournesol) (動機づけあり)	Professor Calculus (Cuthbert Calculus) (動機づけあり)	ビーカー教授 (ビルフリート・ビーカー) (動機づけあり)

*Tintin*における固有名詞翻訳 まとめ

- 日英両訳ともに、主人公（Tintin）とハドック船長の名前はそのままの形でTTに採用されている。
- 動機づけのある固有名詞は、日英のTTにおいて、同様の動機づけがある固有名詞として翻訳されている。
（ex. Dupond/Dupont ; Le professeur Tournesol）
- 特に動機づけのない固有名詞が、動機づけのある固有名詞として翻訳されるケースもみられる（ex. Milou）。

6. おわりに

6.1. 固有名詞の翻訳事例まとめ

- 今回の分析の結果、「固有名詞は翻訳できない（しない）もの」という通説に反し、実際には多くの固有名詞が工夫して翻訳されていることが確認できた。
- 例えば、*Astérix* における「駄洒落をなす固有名詞」は、日本語訳では一貫して音訳されていたが、英語訳においては全て「駄洒落をなす固有名詞」として翻訳されていた。
- また *Tintin* に関しては、固有名詞の「動機づけ」が非常に重視され、多くの固有名詞が「動機づけ」を保持したまま工夫して翻訳されていた。

- また、「固有名詞には意味がない」とするMill的な見解に反して、今回分析対象とした固有名詞の多くは、豊かなコノテーション（意味）を持っていることが明らかになった。
- 例えば、*Astérix*の主要登場人物名（-ix）は、「ガリア人」というコノテーションを持っている（この意味において、今回分析対象とした*Astérix*の登場人物名は全て「動機づけのある固有名詞」と捉えることも可能だと考えられる）。
- *Tintin*における「動機づけのある人物名」は当該人物のキャラクターを示唆するような豊かなコノテーションを持っている。
- これらの固有名詞は、**当該登場人物のキャラクター付け**に大きく寄与していると考えられる（ただし、*Astérix*の人物名が持つ「駄洒落」のコノテーションは、登場人物のキャラクターというよりも、作品全体の特徴付けに関与していると思われる）。

6.2. 登場人物のキャラクター付けを担う固有名詞

- この点についてももう少し詳しく説明すると、BD作品における「動機づけのある固有名詞」は、登場人物のキャラクターを分かりやすくするために重要な役割を果たしていると考えられる。
- Le capitaine Haddock（イギリス系貴族の末裔である船長）
- Dupond/ Dupont（外見がそっくりのさえない刑事）
- Le professeur Tournesol (Tryphon Tournesol)（風変わりな科学者）

このような観点から考えると、BD作品における「動機づけのある固有名詞」は「**役割語**」に近い機能を果たしているのではないかと推測される。

役割語とは

役割語とは「特定のキャラクターと結びついた、特徴ある言葉づかいのこと（金水2003: 3）」

「ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ」（金水2003: 205）。

例：「そうじゃ、わしが博士じゃ」「ごめん遊ばせ、よろしくってよ」

役割語を使うと、登場人物のキャラクターを簡単に表現できるため、役割語は漫画や児童文学などにおいて特に重要な位置をしめる。

- 特に〈日本語の役割語は、豊富な人称代名詞と文末表現を組み合わせる「足し算式」にバリエーションを作ることができる（山口2007:21）〉ため、日本語は役割語が作りやすい言語であると言える。しかし、フランス語はその限りではない。

日本語一人称：「俺」「僕」「わたし」「あたし」

日本語文末表現：「ござる」「おじゃる」「じゃ」

- したがって、簡単かつ生産的に役割語を作ることが難しいフランス語のBD作品においては、「動機づけのある人物名」が登場人物のキャラクター付けにおいて重要な役割をはたしていると推測できる。そのため、BD作品における「動機づけのある人物名」の訳出は非常に重要であり、工夫して翻訳する必要があると言えるだろう。
- BD作品における「動機づけのある人物名」は、「固有名詞は翻訳しない」という通説には全く当てはまらないと考えられる。

6.3. 結論と今後の課題

〈結論〉

- 今回の調査の結果、多くの固有名詞が創意工夫して翻訳されていることが確認できた。したがって、「固有名詞は翻訳できない（しない）もの」とする通説には、大いに反論の余地があるという結論に至った。
- さらに今回の分析の結果、（「固有名詞には意味（コノテーション）がない」という通説（MIII的見解）に反し、**BD**作品における人物名には、豊かなコノテーションをもつものが多数あることが確認できた。
- それらの固有名詞は「役割語」と同様に、登場人物のキャラクター付けに大きく関与していると考えられる。特に**BD**などのコミックス作品においては、こうした「キャラクター付け」が非常に重要であるため、**BD**（コミックス）翻訳において固有名詞は重要な論点となりやすいと考えられる。

〈今後の課題〉

- *Astérix*、*Tintin*におけるその他の人物名、あるいは人物名以外の固有名詞についても同様の分析を行い、さらに調査の幅を広げたい。
- *Astérix*、*Tintin*以外のBD作品における固有名詞翻訳についても同様の分析を行い、今回の分析結果がどの程度BD作品全般に当てはまるものなのか確認したい。
- 今回は専らコーパスの観察に基づく分析を行ったが、今後は、翻訳者の個性や時代背景、想定される読者層の違いなどにも注目し、より広い観点からBD翻訳について調査していきたい。

【欧文参考文献】

- Agafonov, C., Grass, T., Maurel, D., Rossi-Gensane, N., & Savary, A. (2006). La traduction multilingue des noms propres dans PROLEX. *Métra*, 51(4), 622-636.
- Baker, M. and G. Saldanha (2009) *Routledge Encyclopedia of Translation Studies*, 2nd Edition, London, Routledge.
- Ballard, M. (1998). La traduction du nom propre comme négociation. *Palimpsestes. Revue de traduction*, 11, 199-223.
- Bréal, M. (1924) *Essai de sémantique science des significations*. Paris, Librairie Hachette
- Delesse, C. (1998). Astérix d'un bord à l'autre de l'Atlantique, ou *La Grande traversée*. *Palimpsestes* 11, 173-185.
- Delesse, C. (2001). Le cliché par la bande: le détournement créatif du cliché dans la BD. *Palimpsestes. Revue de traduction*, (13), 165-182.
- Delesse, Catherine. (2006). Les noms propres dans la série *Astérix* et leur traduction anglaise. *Palimpsestes* Hors série, 297-315.
- Delesse, C. (2015). Proper Names, Onomastic Puns and Spoonerisms. In *Comics in Translation*, 251-269
- Delesse, Catherine et Richet, Bertnand. (2009). *Le coq gaulois à l'heure anglaise. Analyse de la traduction anglaise d'Astérix*. Arras, Artois presses université.
- Emeline Lecuit, Denis Maurel et Duško Vitas. (2011). La traduction des noms propres : une étude en corpus. *Translationes*, 10. 201- 218
- Lecuit, E., Maurel, D., & Vitas, D. (2011). La traduction des noms propres: une étude en corpus. *Corpus*, (10), 201-218.
- Mill, J. S. (2019). *A system of logic. Ratiocinative And Inductive*, Routledge.
- Recanati, Francois. (1983). La sémantique des noms propres: remarques sur la notion de « désignateur rigide ». *Langue française* 57, 106-118.

【和文参考文献】

- 川口順二. (2011) 「固有名詞をめぐって」 『藝文研究』 101.2, 241-16.
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店
- 今野喜和人 (2014) 「翻訳の<倫理> の一側面: 固有名詞の訳をめぐって 『翻訳の文化 / 文化の翻訳』 9, 1-11.
- 藤川直也 (2008) 「直接指示論とフィクションにおける名前」 『哲学論叢』 35,177-188.
- 山口治彦 (2007) 「役割語の個別性と普遍性」 『役割語研究の地平』 黒潮出版 9-2
- モナ・ベイカー、ガブリエラ・サルダーニャ編 (2013) 『翻訳のキーワード』 藤
濤文子監修・編訳、伊原紀子、田辺希久子訳、研究社
- マイクル・ファー (2002) 『タンタンの冒険 その夢と現実』 小野耕世訳、サンライ
ズライセンシングカンパニー

【参考Website】

Astérix公式ウェブサイト（2024年9月26日閲覧）

<https://asterix.com/>

Tintin公式ウェブサイト（2024年9月26日閲覧）

<https://www.tintin.com/fr>

TINTIN JAPAN（2024年11月21日閲覧）

http://www.tintin.co.jp/news/newsdate_kaigai/2009/news_k_090714.html

Hachette Livreグループの広報サイト内、Albert René出版社紹介ページ（2024年11月13日閲覧）

<https://www.hachette.fr/editeur/albert-rene>

Larousse オンライン（2024年9月23日閲覧）

<https://www.larousse.fr/dictionnaires/francais/propres/64408#158772>

【コーパス】

〈フランス語原作〉

Goscinny, René et Uderzo, Albert. 1961. *Astérix le Gaulois*. Paris, Dargaud.

Goscinny, René et Uderzo, Albert. 1963. *La Serpe d'or*. Paris, Dargaud.

Goscinny, René et Uderzo, Albert. 1963. *Astérix et les Goths*. Paris, Dargaud.

〈日本語訳〉

渡辺一夫監修、松原秀一、新倉俊一、西本晃二翻訳

1974 『アステリックスの冒険』 双葉社

1974 『黄金の鎌』 双葉社

1974 『アステリックスとゴート族』 双葉社

〈英語訳〉

Translated by Anthea Bell and Derek Hockridge:

1969. *Asterix the Gaul*. London, Hodder Dargaud.

1975. *Asterix and the Golden Sickle*. London, Hodder Dargaud.

1974. *Asterix and the Goths*. London, Hodder Dargaud.

〈フランス語原作〉

Hergé. 1941. *Le Crabe aux pinces d'or*. Tounai, Casterman.

Hergé. 1943. *Le Secret de La Licorne*. Tounai, Casterman.

Hergé. 1963. *Les Bijoux de la Castafiore*. Tounai, Casterman.

〈日本語訳〉

川口恵子訳

2003 『金のはさみのカニ』 福音館書店

1983 『なぞのユニコーン号』 福音館書店

1988 『カスタフィオーレ夫人の宝石』 福音館書店

〈英語訳〉

Translated by Leslie Lonsdale-Cooper and Michael Turner:

2009. *The Crab with the Golden Claws*. London, Farshore.

2012. *The Secret of the Unicorn*. London, Egmont.

1989. *The Castafiore Emerald*. London, Mammoth.

ご清聴ありがとうございました